

2014年度の行事と今後の予定

- 7月26日(土) 例会：今野進「金鉱山から都市鉱山へー将来への展望ー中外鉱業の場合」 村田淳「オーストラリアの鉱山ー世界鉱山歴史会議報告ー」
- 7月31日(木) 海外鉱山文献読書会
- 8月23日(土) 第39回映像の会 8月28日(木) 海外鉱山文献読書会
- 10月10日 NL (No. 96) 発行
以後は予定です。
- 10月23日(木) 海外鉱山文献読書会
- 11月8日(土) ~9日(日) 黒川金山、小金沢金山合宿
- 11月 NL (No. 97) 発行 海外鉱山文献読書会
- 12月 第41回映像の会 海外鉱山文献読書会 『鉱山研究』92号原稿締切
- 2015年1月 例会：(交渉中) 菊池今朝和「北アルプスの鉱山」高岡秀俊「伊豆の隠し金山」 海外鉱山文献読書会
- 2月 海外鉱山文献読書会 NL (No. 98) 発行
- 3月 伊豆巡検(伊東市郊外金山、河津の金山ほか) 海外鉱山文献読書会
『鉱山研究』92号発行
- 4月 総会

『鉱山研究』原稿募集

締め切りは2014年12月末日。できればメールで完成原稿(著者校正無し)を村田にお送りください。

完成原稿でない場合は村田に連絡をください。その場合、原則として入力料金がかかります。なお掲載するか否かは、編集担当が審査させていただきます。

送り先・問い合わせ先：村田 淳 〒221-0011 横浜市神奈川区神之木台 41-22

電話・Fax：045-401-5259 メール：sunao-murata@y8.dion.ne.jp

例会案内（予定）

現在、報告者と交渉中です。

- ①熊谷友昭（非会員） 「（仮題）戦前の鉄鋼生産を支えた奥武蔵山中の架空索道」
- ②高岡秀俊（元会員） 「（仮題）伊豆の隠し金山（河津町、伊東市郊外）」
- ③菊池今朝和（会員） 「（仮題）北アルプスの鉱山」

日時は2015年1月中旬から下旬、会場は未定

*例会での報告をしていただける方は連絡をください。

鉱山の映像を観る会のご案内（次回は12月を予定）

丸山もとこ

映像の会は2004年春に故橋本康夫会員を中心に始まりました。今年で満10年、11年目になります。

現在映像の会は、皆様のご協力を得て成り立っています。鉱山に関する映像でしたら、歴史的な映像はもちろん、新しいものでも構いません。個人で撮影した鉱山探訪ビデオ、鉱山会社のプロモーションビデオ、テレビのドキュメンタリー番組、ドラマ、映画などありましたら、情報を下記連絡先までお寄せください。どうぞ宜しくお願いいたします。

【次回】2014年12月の土曜の午後（未定）

【ウェブサイト】<http://www.jmrs.sakura.ne.jp/visual/>

【連絡先】jmrs.eizonokai@gmail.com

日程と内容が決まりましたら、上記ウェブサイトに記事を投稿します。

メールでもお知らせしています。これまで映像の会からメールを受け取っていない方で、メールを希望される方は、上記連絡先までご連絡ください。

名簿作成についてのお願い

会員同士で教えあい、情報を交換するために名簿が必要です。海外の研究者は公開するのが原則です。もちろん名簿は会員のみ配布です。

公開してよい項目、氏名、電話、メールアドレスなどを村田にメールやほかの方法でお知らせください。

合宿案内

黒川金山（塩山市）、金山金山（大月市）見学

村田 淳

今回は戦国時代に武田氏が開発・採鉱したとされている、大月市所在の金山金山と塩山市所在の黒川金山を予定しています。

武田氏が戦国時代に開発したと言われる金山は、おおむね山梨県東部と南西部の富士川流域、早川流域にあります。南西部の旧鉱山は保金山、湯ノ奥金山など主なところは既に見学しています。その中には近代まで採鉱が行われているところもあります。

黒川金山

黒川金山は国指定の文化財です

黒川金山は大同2年（807）にすでに採鉱が行われていたともいわれますが、記録があるのは戦国時代が最も盛んな時期で、江戸時代頃から衰退し、そして昭和の初めに再び試掘を試みましたが、失敗に終わっています。

現在見学できるのは主に戦国から江戸にかけての、遺跡のような状態のところ です。坑口はいくつかあり、近代のものも確認できます。坑口そのものは崩落して いて、「これらしい」という程度です。黒川の沢の斜面にたくさんのテラスがありそ の盛況な時期を推測できます。

黒川金山の規模は、谷に沿って上下600m、最大幅200m、最高地点標高1390m、最低地点標高1180m、標高差210m、テラス数約300箇所。

見学箇所は広い範囲に及びますので、参加者が自由に確認して回ることになりま す。危険箇所は近代の坑口の近辺だけですが、迷子にならないように注意が必要で す。

行程は、ゆっくり歩いて、登りが民宿から約2時間30分、降りは駐車場まで1 時間30分、標高差約370m、山道は大部分整備されていて歩きやすく、2か所の橋 を除けば危険箇所はほとんどありません。

金山金山（賑岡金山、都留鉱山）

大月駅から車で15分程度、大字西奥山字金山に所在、現在その場の中心に福祉施 設があります。

開坑は明治以前と言われ、一説には戦国時代に遡るとも言われてもいます。大正、 昭和には盛んに稼業されました。坑口は新旧含めて10あり、その一つ、新坑2（通 洞坑として利用）は入坑可能な状態です。

見学許可をいただいています。そのほかの坑口は崩落していますが、狭い範囲に 集まっていますのですぐに見つかると思われま す。

■日程

11月8日(土)

集合：12時00分

集合場所：大月市郷土資料館 大月市猿橋町313-2 電話：0554-23-1511

JR猿橋駅下車、徒歩15分位、(場所が分からない方には地図を送ります)

金山金山見学(大月市西奥山)

11月9日(日)

黒川金山見学(塩山市)

14時30分散(出発地駐車場、車で大月駅か猿橋駅まで送ります。)

16時30分大月駅着

■宿泊：民宿みはらし(塩山市一之瀬高原) 電話：0553-34-2109

■申し込み締め切り10月25日(土曜日)

■問い合わせ、申し込み先：村田淳 電話・Fax:045-401-5259

メール：sunao-murata@y8.dion.ne.jp

郵便：221-0011 横浜市神奈川区神之木台41-22

■参加費 約13,000円(宿泊、ガソリン、謝礼代わりのお菓子(金山金山)など)

■注意事項

寒さ対策は、11月に入りますので、霜が降りることがあり、しっかりした靴(できれば登山靴)、セーター、防寒服、手袋、替え下着が必要です。

金山金山は入坑可能です。入坑希望者は、丈の高い長靴、ヘッドランプを持参してください。

鉾山研究会ホームページのご案内

丸山もとこ

鉾山研究会のホームページをご存知ですか？

<http://www.jmrs.sakura.ne.jp/>

ニューズレター/会誌、例会/大会、見学会/巡検、映像の会、読書会など、当会の定番行事だけでなく、当会以外のイベント(企画展、シンポジウム、講演会、新刊本、ツアーなど)の情報も寄稿されています。ぜひ情報交換BBS

(<http://www.jmrs.sakura.ne.jp/member/>)を覗いてみてください。

情報交換BBSは会員の皆様に開かれたサイトです。自分で記事を投稿したい方、記事にコメントをつけたい方は、下記までご連絡ください。記事の投稿方法、サインインのためのパスワードをお知らせします。

【連絡先】jmrs.hp@gmail.com

海外鉱山文献読書会のご案内（10月から新テキスト）

丸山もとこ

読書会は1996年秋に始まりました。今年の秋で満18年、19年目に入ります。テキストも10月から新しくなり、5冊目になります。

新テキストは、著名アメリカ人鉱山史家クラーク・C・スペンスの代表的な著作の一つで、19世紀後半のイギリス人によるアメリカの鉱山への投資について書かれています。

英語の勉強がしたい方、鉱山の国際会議や海外の鉱山に関心のある方、一緒に英語を勉強しませんか？英語が苦手という方こそ奮ってご参加ください。

【テキスト】 Spence, Clark C. *British Investments and the American Mining Frontier, 1860-1901*. University of Idaho Press, 1995.

【次回】 2014年10月23日（木）15:30～17:30

【会場】 川崎駅の近く（参加希望者にご連絡ください）

【会費】 なし ただしテキストは自分で用意してください

【ウェブサイト】 <http://www.jmrs.sakura.ne.jp/reading/>

【連絡先】 jmrs.dokushokai@gmail.com

【注意事項】 参加希望者は必ず事前にご連絡ください

伊豆巡検案内（予定）

今回は元会員の高岡秀俊さんの案内で、河津町と伊東市郊外にある隠し金山を見て回り、時間があれば河津町菖蒲沢で金の鉱石を探します。

日程は2015年2月下旬か3月上旬を予定しています。

問い合わせは、村田淳におねがいします。

研究大会報告者の募集

2005年4月に研究大会・総会を予定しています。

会員の皆様の報告をお願いします。年に一回なるべく多くの会員の参加をお願いし、多様なテーマの報告を期待します。

テーマは鉱山に関係するものならばかまいません。一人の持ち時間は、報告が20分、質疑応答が10分です。

ふるって応募してください。問い合わせは村田淳まで。

書籍紹介

平成26年10月4日

石川孝織 著『釧路炭田 炭鉱（ヤマ）と鉄道と』

金丸 哲也

本書は当会会員の石川孝織氏が北海道新聞釧路版に連載した「記憶の一枚『釧路炭田再発見』」を収録したものである。掲載日は2012年9月7日から2014年2月28日までの全70回の連載。写真については北海道釧路市立博物館で開催した企画展「釧路炭田の炭鉱と鉄道」（開催期間2014年1月25日～3月30日）での展示写真を中心に収録している。

序文については「釧路の新しい宝物」として早稲田大学文学学術院 嶋崎尚子教授が寄稿している。

著者は自称が「鉄ちゃん」ということもあり、第1部「炭鉱と鉄道」では釧路炭田に現存・存在していた。釧路臨港鉄道、雄別鉄道、尺別鉄道、雄別鉄道埠頭線、雄別鶴野線、明治炭業庶路炭鉱専用鉄道、旧国鉄の運炭線であった根室本線、旧白糠線、釧路臨港鉄道と旧国鉄との連絡駅であった東釧路駅での国鉄への製品炭引き合渡し、雄別鉄道のテレビCMロケで使われた白色塗装の蒸気機関車、雄別鉄道の最終列車が取り上げられている。

表紙の写真は1970年1月9日に撮影された雄別鉄道の連絡駅である旧国鉄・新富士駅で入換中の石炭列車、煙を上げる蒸気機関車と水洗炭の水分がツララとなって氷結したセキ車の写真で迫力がある。

第2部「炭鉱とくらし」では1950年代から1990年代の太平洋炭鉱の技術的な話を中心にしながら労働組合、主婦会、生協などを取り上げている。太平洋炭鉱以外については雄別炭鉱、明治庶路炭鉱、雄別尺別炭鉱、釧路村（現・釧路町）深山地区にあった租鉱ヤマ、最後は現存する釧路コールマインを取り上げている。巻末近くには「写真で見る炭鉱と鉄道」と題して釧路臨港鉄道、雄別鉄道、尺別鉄道、日本国有鉄道 白糠線・根室本線 46ページに渡って取り上げている。

本書の特徴として鉄道写真資料の充実が上げられる、釧路臨港鉄道、雄別鉄道の映像、写真資料については運転期間が長いこともあり、それなりに残されているが、根室本線 尺別・白糠方面からの石炭列車、稼行期間が約6年と非常に短かった雄別上茶路炭鉱の運炭線であった白糠線の石炭列車については残存する写真資料が少なく貴重であると思われる。

本書は「炭鉱と鉄道」、「炭鉱の仕事とくらし」どちらも写真とオーラルヒストリーを中心に構成されており、釧路炭田オーラルヒストリーといったところである。本書は専門書籍ではないが、釧路炭田史の入門書として本書の購読を推奨したい。著者の釧路炭田オーラルヒストリーの収録は本書刊行後も継続されており続編の刊行を期待したい。

198ページ 2014年9月20日刊 発行所：水公舎

本書の購入については、釧路市立博物館友の会、〒085-0822 北海道釧路市春湖台1-7（釧路市立博物館内）TEL0154-41-5809 FAX0154-42-6000まで

コーチャンフォー・リラブ各店（釧路・札幌・旭川・北見）、豊文堂書店（釧路）でも取扱いしている。

釧路市立博物館友の会からの購入は頒布価格¥1,200円（税込）送料1冊¥100、2冊¥150、3～5冊¥200

本書が多くの方に読まれることを期待したい。

書籍紹介

日本鉱業史研究会『喜和田鉱山探鉱回顧』

金丸 哲也

9月30日付日刊産業新聞より

日本鉱業史研究会が『喜和田鉱山探鉱回顧』を刊行した。

喜和田鉱山は山口県岩国市近郊にあったタングステン鉱山で、山口県錦川周辺では本鉱山を含め規模は小さいものの、多数のタングステン鉱山が存在していた。

本書の編集は2011年亡くなった元鉱山長で「光る石資料館」を運営していた長原正治氏。

本書では合計13あった鉱体の発見と採掘の経緯から、品位・鉱量・規模などの概要までが詳しく記されている。

その他には07年に長原氏らが行った15年ぶりの鉱石搬出をめぐる奮闘記や、ロシア沿海州のタングステン鉱山の訪問記、喜和田鉱山の過去の論文集なども写真付きで、全152ページにわたって収録されている。

本書の姉妹編として2012年有志によって刊行された『大谷鉱山現場回顧』がある。

問い合わせ先は下記、日本鉱業史研究会まで

〒812-8581

福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学総合研究博物館内

TEL 092-642-4297 / FAX 092-642-4299

例会報告者の募集

例会で報告していただける方を募集しています。

例会の報告の持ち時間は、研究大会が報告20分質疑応答10分に比べ、報告約1時間質疑応答30分と十分に時間があります。

じっくりとまとまった報告が可能です。

テーマは鉱山に関係があるものであればかまいません。金属鉱山、石炭鉱山、経済史、民俗、労働史、労働運動、あるいは鉱物、鉱床など様々な分野からの報告が会員の研究に役立つとおもわれます。

問い合わせ、申し込みは、村田淳あるいは役員に。